

緊急インタビュー 日本電産会長・永守重信を直撃! 「困難の中に解決策がある」

財界

ZAikai
a Japanese business biweekly

特集・ポストコロナ禍
新しい生き方・
産業秩序を探る

2020 6/10

◎インタビュー
安全保障貿易情報センター
理事長
坂本 吉弘
日本M&Aセンター会長
分林 保弘
第一勧業信用組合理事長
新田 信行

社会課題の解決へ、諦めない経営を!
東レ・日覚昭廣の「素材には
社会を変える力がある」

本誌記者 村田 博文



表紙の人
東レ社長
日覚 昭廣
撮影 齊田 勤



いけだ・よしお

大阪医科大学卒業。1996年大阪医科大学附属病院形成外科入局。同大学附属病院形成外科病棟医長、東海大学病院形成外科・美容外科臨床助手を経て、2000年大阪いけだクリニック開院。04年銀座いけだクリニック開院。現在は東京皮膚科・形成外科総院長の他、東海大学病院形成外科非常勤講師、一般社団法人・JAAS日本アンチエイジング外科学会理事長をつとめる。

唐使が中国へ渡った7世紀以降には、中国の文化とともに医学書も輸入されるようになりました。漢方と呼ばれるようになった名前の由来は日本へ伝来した西洋医学である「蘭方」と区別するために作られたものです。漢方が一般の人になぜあまり知られていないかというと、皇室が使っていたからです。そのことは文献として大宝律令などに記載されており、聖武天皇が使用していたということ

も分かっています。また光明皇后が使用した漢方薬は正倉院に納められていて、今でも見ることが出来ます。皇室や武士など高貴な人しか使用できなかった漢方薬を一般の人たちが飲めるようになったのは江戸時代のことです。明治維新が起こる前の江戸時代までは漢方が最も盛んに使われていたようです。——漢方と漢方薬はどう違うのですか。

「漢方と西洋医学のいいところを融合して、新しい治療を患者に提供したい」

東京皮膚科・形成外科 総院長 池田 欣生 × 漢方コミュニケーションズ代表取締役 結城 奈美枝

今回のゲストは、漢方薬の良さを30年広めてきた私の姉である漢方コミュニケーションズ代表取締役・結城奈美枝氏です。結城代表取締役は、漢方のいいところと西洋医学のいいところを融合して治療に生かし、患者のためになる事を続けてきました。結城代表取締役に、漢方薬の良さについて語ってもらいました。



ゆうき・なみえ

漢方コミュニケーションズ代表取締役 薬剤師（国家資格・漢方専門30年以上） 鍼灸師（国家資格） 按摩指圧マッサージ師（国家資格） 国際中医師（AEAJ）

祖父が薬剤師の道を導いてくれました

池田 今回のゲストは私の姉、漢方コミュニケーションズ代表取締役・結城奈美枝氏です。姉・奈美枝は漢方専門薬剤師として30年間、3500人以上の方を診てきました。漢方とはどういうものですか。結城 漢方は中国の医学が日本で発展した日本独自の伝統医学です。6世紀ごろに中国から朝鮮半島を経て日本に伝わりました。遣隋使や遣

結城 「漢方」とは鍼灸や食・養生も含めた方法、全てを意味しています。「漢方薬」は漢方医学の理論に基づいて処方される医薬品のことです。さまざまな生薬の組み合わせによって、その人の体質に適した体の症状に対応できます。

池田 私たちの父・池田壽雄は医師でした。医師ではなく姉・奈美枝が漢方薬剤師を目指したきっかけは、

結城 昔の日本の人たちがずっと大事にしてきた日本の医療を後世に残したいと思ったからです。その機会を与えてくれたのは母方の祖父です。父方の祖父も医師で、漢方薬も西洋薬も両方使っていました。母方の祖父は薬剤師で、漢方をやっていたので、これを残さないといけないと思いました。

池田 明治薬科大学で漢方を教えていました。学生たちにどんなことを教えていましたか。

結城 明治維新の頃、当時の日本の医師たちはなんとか自国の医療を残そうと努力しました。その中の1人が長井長義という人です。ドイツに飛び、漢方薬の中から、今でも咳止めに使われているエフエドリンを発見することに成功しました。長井長義先生は日本薬学会初代会頭で、

日本の近代薬学の開祖で明治薬科大学でも大きく関わっています。明治薬科大学の構内には漢方の博物館があります。でも、今の薬科大学ではほぼ西洋薬学を教えることが中心で、漢方を教えることにはそれほど力を入れてはいません。私は非常勤講師として明治薬科大学で漢方を学生たちに教えていたことがありますが、「あなたたちこそ漢方を勉強しなきゃいけないのですよ」と授業中にしたものです。

池田 薬剤師には国家試験がありますが、漢方薬剤師になるには国家試験があるのでしょか。

結城 漢方薬剤師の国家試験はありません。当時、日本の漢方の先生や中醫師の先生について独学で勉強していたところ、人に勧められ、世界61か国で使用できるという「国際中医師」という免許を取りました。薬科大学の非常勤講師時代に出会った鍼灸の先生からは、「漢方は日本では免許が取れないけれど、鍼灸は国家資格だし、東洋医学の勉強もできるよ」と言われたので、鍼灸の免許も取りました。

患者さんと直接接し、症状や不調の相談を受けながら、適切な漢方を



姉・結城奈美枝さんと弟・池田欣生総医院長

のが上手いんです。
お客様一人一人のお話を一生懸命聞くうちに、長いお付き合いになります。大手漢方薬局の時も、そうしているうちに徐々に売り上げが上がっていききました。
私は大したリーダーでも大した人間でもありませんが、人を育てるのが上手ということがあるかもしれませ

せん。
池田 私のクリニックで今一番漢方に頼っているのは精神的な分野です。精神科の分野は、西洋の薬はほとんど治せません。とりあえず暴れるから抗うつ剤で治そうみたいな。むくみや術後の腫れなどに関しても結構使用しています。今はアンチエイジングの薬はないので、いいこと

ろがあれば漢方薬を取り入れていきたいと思っっているのです。
——女性経営者として今後の漢方コミュニケーションの抱負を教えてください。
結城 私は女性なので、男性の経営者の仕事の仕方と女性の経営の仕方は基本的に全く違うと思っっています。女性ならではの経営の仕方をする方がいいんじゃないかと思っつてやっています。
女性は何が得意かというと、リーダーとして人をぐいぐい引っ張っていくよりも、下からのボトムアップです。ボトムアップをフォローしていくということ。一人一人の良さを伸ばしてあげるといいう、そういう経営の仕方が女性に合っっているのではないかと思っっています。
もう一つ、父親も医者で病院経営者、祖父も薬剤師で薬局経営者でしたが、両親も常に時代の流れを見ていて、経営をしてきました。私も経営20年の経験を通して経営は時代の波を見て早く動く、見切りをつける時には早く見切りをつけないといけないと思っっています。
でもこれがチャンスだと思ったら、すぐ動くといったことをしていきたいです。私の経験から観察力は女性

漢方コミュニケーションズ
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-7-23 1F
TEL 03-5389-3201
HP <https://kampou.jp>

東京皮膚科・形成外科銀座院
〒104-0061 東京都中央区銀座2-11-8 ラウンドクロス銀座3F
TEL 03-3545-8000
HP <http://www.251901.net/>

選ぶのが漢方薬剤師の仕事です。中国の伝統医学である「中医学」という知識を活かし、体全体のバランスを考えた治療を行います。
また、病気として症状の出る前から予防を考える「未病先防」を重視します。

国際中医師の免許を獲得

池田 鍼灸の先生から学んだことで、一番印象に残っているのは何ですか。
結城 その鍼灸の先生がすばらしい方で「やっぱり医療のリーダーはお医者さんなので、自分たちはお医者さんどうサポートするかを考えよう」と言ってくれました。これは私がすごくやりたかったことでした。

私は、以前から西洋医学と東洋医学を一緒にすればいいのにとずっと思っていたのです。医師の中には漢方のことをエビデンスが少なく、信用できないとしている方もいらっしゃいますが、どちらがどうということではなく、西洋医学も東洋医学も融合してほしいと。医者である祖父の書庫にはいっぱい漢方の本がありました。

明治時代のお医者さんは両方とも融合させていたはずなんです。目的は患者さんが良くなることなのだから、お医者さんと一緒に手を組んで一緒にやれないものか、お医者さんに漢方のことをどんなふう説明すればいいだろうかということに常に考えながらやってきました。
弟・欣生も妹も医師になりましたので、家族で連携が取れて良かったと思っっています。西洋薬、漢方薬、どちらが優れているということではないので、それぞれの得意分野を組み合わせるかたちで併用することが有効だと考えています。
池田 私も漢方について姉・奈美枝との連携により、治療の際非常に役立っっています。
結城 漢方には下薬、中薬、上薬という考え方があります。すごく効くものの、飲み続けると害になるのが下薬です。
昔は西洋薬がなかったので、漢方薬も下薬を使っっていました。
今は西洋薬の方が効き目が高いので、重い症状の人には漢方を使用しながらも医師の診断を必ず受けるよう患者さんたちには勧めます。
中薬は長期間飲み、体質を改善する薬です。これは医者も使っ

ていいです。
池田 漢方薬は厚生労働省の認可が要るのですか。
結城 はい。厚生労働省の認可どころか、WHO（世界保健機構）では2018年6月「国際疾病分類」の第11回改訂版（ICD11）で「伝

漢方はWHO（世界保健機構）で医薬品と認定

池田 漢方薬は厚生労働省の認可が要るのですか。
結城 はい。厚生労働省の認可どころか、WHO（世界保健機構）では2018年6月「国際疾病分類」の第11回改訂版（ICD11）で「伝

のですが、中薬を下薬のようにして使い、その結果、あまり効かないというケースが多いです。中薬は体質に合わないと言っるので、専門家のチェックが必要なのですが、専門家をいれずに下薬のような使い方をするので、時々、副作用が起っつてしまっっています。
一人一人の話をちゃんと聞いて、それに合わせて処方するのが中薬です。私が一番注目したのが上薬です。上薬は飲めば飲むほど体が軽くなり、不老長寿が叶うとされていっます。「未病を治す」「病気になる前から治す」ということも漢方の書物には記載されておっり、若い頃、それを読んだときは、とても魅力的だと思っいました。上薬は日本では医薬品として扱われていないものがほとんどなので、薬剤師として私がサポートできるものはこれだと思っいました。

統医学」として漢方をはじめとする東洋医学が大26章に付け加えられました。に医薬品として認定されています。
池田 でも、なぜ漢方は日本であまり広まらないのでしょうか。
結城 なんとなく怪しい感じがするんでしょね。漢方薬局や漢方薬剤師にも問題があると私は思っっています。私は患者さんのことを思っは、状況に応じて医師の受診を積極的に勧め、受診先も紹介してはいますが、薬局の漢方薬剤師によっては医師に紹介しないまま、自分のところのみで治そうとして、悪化させてしまうこともあるようっです。
医師と漢方薬剤師の連携はとても大切だし、まだまだ医療の課題でもあると思っっています。
池田 薬学部を卒業、大手漢方薬局の会社に入社して、最速で店長になり、配属された支店で会社ナンバー1の売り上げ伸び率を叩き出しました。どんなふう立っ直したんですか。
結城 私はよく人から「リーダーらしくないリーダー」と言われまっすが、人の使い方がうまいということも言われまっす。人の長所を見つけれ出すのが得意でそれを伸ばしてあげ

の方が長けてると思っます。よく物事に対して気が付きます。でも女性の経営者がすごいと言ったいのではなくて、上手にバランスよく男の人のいいところ、女の人のいいところを融合させる。同じように漢方と西洋医学のいいところも融合させる。そうして「競争」よりも一緒に「競走」することにより、格段にいい会社や社会が作りあげられていくのでは、と考えています。